

初出音源を含むオリジナル・マスターテープからのSACD化 ■満津岡信育

1953年8月26日のルツェルン音楽祭で、1曲目に演奏された《マンフレッド》序曲は、これが初出となる録音だ。フルトヴェングラーは、同音楽祭で計18回のコンサートを指揮しており、その内の16回は、スイスの音楽家たちを中心にした音楽祭のハウス・オーケストラが相手であった。この53年にコンサートマスターを務めたのは、若きミシエル・シュヴァルベである。

VPOとのセッション録音「旧EM」よりも演奏時間はやや長く、ルツェルン

音楽祭管の響きは、名門楽団に比べると淡泊ではあるが、フルトヴェングラー特有の緩急を活かした指揮ふりがしっかりと刻み込まれているのが印象的。アクセントの付け方やフォルテピアノの処理など、この大指揮者が、シューマンのスコアを前にして、どのように味付けをしたかがよくわかる演奏になっている。初出となる放送局のオリジナル・テープを使用しているため、既出の2曲の音質も大幅に改善されている点も嬉しい限りである。



シューマン：《マンフレッド》序曲*、交響曲第4番、
ベートーヴェン：交響曲第3番《英雄》
ルツェルン（スイス）音楽祭
録音：1953年8月26日（L）
[オーディオテクニカ KIGC27～8] CD&SACD
*初出音源
※2017年11月22日発売

2017.10 Record Geijutsu